

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0173000233		
法人名	有限会社クレインサービス		
事業所名	グループホーム ふれあい・ふらの (すみれ)		
所在地	富良野市北の峰町17番10号		
自己評価作成日	平成23年10月30日	評価結果市町村受理日	平成24年2月23日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigochoo-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0173000233&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3番地北1条ビル3階
訪問調査日	平成23年12月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

整形外科医院の副院長がオーナーであり医療的な面での対応が充実しています。平成21年度11月スプリングラー設置 平成22年6月浴槽拡張工事を機に特殊浴槽導入地域の皆様の協力も得て町内行事の参加交流の多いホームです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

施設長の優しい語りかけと笑顔に迎えられ、ホーム全体の穏やかな雰囲気、利用者の様子、職員の対応から感じられます。想いのままに暮らしている利用者の姿や、想いに応えようと見守っている職員の様子が、「いつも幸せな顔をしている」「家族のように接してくれる」「悲しそうな表情が笑顔に変わった」「気持ちを尊重してくれる」「職員は自然体で対応してくれている」と家族が認めているホームです。町内会の班長を務め地域に貢献し、地域からも多くの協力が得られています。避難訓練にも家族と一緒に参加して頂き、ホームでの生活状況の見学で、避難時の困難さを確認して頂き、地域協力の大切さを実感して頂いています。利用者の以前の生活習慣が、入居によって途切れないように、馴染みのスーパーに買い物に行ったり、習い事の継続で南富良野町の「歌会」に通う支援や、発表の場を作ったり、趣味の絵画の応援等もしています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を見える所に置きスタッフが共通認識を持ってケアを行えるように努力している。	「心穏やかに、ありのままに…」のホーム理念と「安心感の中で馴染みの環境…」のケア理念が、ホーム内の随所に掲げられ、職員は内容を理解し実践しています。「気付かなかった想い」「想いに気付いた時」「想いが叶えられた時」の利用者の表情から意義を感じています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会などに入り地域の行事などに参加させて頂いている。ふれあいサロンなど	地域との関係作りを積極的に行い、職員と一緒に町内会の清掃作業や、総会、敬老会（お年寄りに感謝の会）に参加することで、地域との交流を図り、信頼関係作りを努めています。子供会主催の運動会や、ふれあいサロンにも出かけるなど、利用者は楽しみにしています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の行事などに参加して理解や支援方法を深めている。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月の1度のペースで運営推進会議を行いホームの状況など報告している。	利用者・家族・行政職員・町内会長・民生委員が参加し、2ヵ月に1度、運営推進会議を開催しています。活動報告や意見交換が行われ、サービスの質向上に活かしています。研修状況や事例検討も行き、グループホームの在り方を明確にしています。	今後は、運営推進会議の活性化のためにも、会議の意義や内容を理解して頂き、欠席されている家族の方にも議事録の配布を行い、情報が共有できる取り組みを期待します。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	月1度ほど地域事業所、ケアマネ会議等の参加にて協力関係を築いている。	毎月開催される地域ケア会議に出席し、福祉関係者と情報交換を行っています。医師や医療相談員の参加もあり、関係者と連携を深める機会となっています。行政へ相談や問い合わせ、連絡を取ることで、協力関係が築けるように取り組んでいます。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修、マニュアルなどを参考に拘束しないケアに取り組んでいる。	身体拘束をしないケアのマニュアルを整備し、職員は毎年研修し、正しい理解でケアに取り組んでいます。玄関の施錠・ベット周りの拘束もなく、車いすからの適宜移乗も行っています。職員が利用者にかける言葉についても、施設長が語る雰囲気が、職員に浸透しており、穏やかな雰囲気となっています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日々のケアの中での気付き等をスタッフ間で話し合い防止に努めている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	各自制度の理解にとどまっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前相談、契約時に説明を行い理解、納得を得て契約を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	連絡調整窓口は代表者、管理者が行っているが、日常的な要望などはスタッフも行っている。	家族の来訪時には、気兼ねなく話ができるような雰囲気作りに努めています。行事や外出の際には家族の協力や、話ができる機会も多くあり、家族からは「いつも幸せそうな顔をしている」「家族のように接してくれる」「悲しそうな表情が笑顔に変わった」「気持ちを尊重してくれる」と嬉しい言葉を得ています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議等を利用して職員の意見、提案等聞く機会を設けている。	毎月のユニット会議やミニケア会議で、職員と話し合う機会を設け、意見やアイデアを運営に活かすように取り組んでいます。担当制をとり、利用者の気付きや想い、要望が、汲み取れるように管理者は支えています。職員同士がお互いを思いやり、日頃の悩みや相談にも応じ、働きがいのある職場環境を作っています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	他施設などの交流や情報交換などを行い職場環境の把握に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修などの機会を確保し積極的に資格取得出来るように進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者などと交流を持ち日頃から連絡を取っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ホーム見学など含め事前に相談、面談などを重ね関係作りを行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談を頂いた時より、ご本人、ご家族に承諾を得て相談、要望等に耳を傾けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族の相談時に必要なサービスを提案させた頂いている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日課の中で利用者と共に暮らしの場面で協力し合える事をしている。洗濯物たたみ、食器拭く等		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時等ご家族に近況など話して頂きご本人を支える関係づくりに努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	定期的な面会に顔なじみの方が来ていただいたり、ドライブなどでなじみな場所に出かけている。	友人・知人の訪問、以前利用していたスーパーに買い物に行き知り合いに会う、ドライブで帰省、入居前に習った「歌会」に継続して通う、好きな絵を描く、そんな場面が数多く作られています。それぞれの特技を活かした作品の展示や、披露の場も作られ、利用者の意欲向上のための支援が続けられています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	もめごとはあるがスタッフが間に入り孤立しない環境づくりに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病院など入院された場合でもご本人、ご家族のフォロー支援に努めている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いや希望に傾聴しご本人の思いに近づけるように関わりを持っている。	センター方式の活用で、利用者一人ひとりの生活歴を把握し、家族からの情報も参考にしながら、日々の会話や行動、仕草から、想いや意向を把握するように努めています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	相談時等住み慣れた生活環境や経過などは把握に努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	スタッフ間など共通認識な一人一人の有する現状の把握に努めている。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要の関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケア会議等で話し合いの場を作り計画に活かしている。	介護計画書に担当職員は、モニタリングに繋がる気付いたことを記載し、評価に反映しています。定期的な見直しと、状態の変化をアセスメントに追記することで、状況の変化を気付けるようにしています。介護計画の目標に沿った日々の記録は、連動するように努め、現状に即した計画作成に反映しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	連絡ノート等を活かし気づきに活かしている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時のご本人、家族のニーズにこたえられるように努めている。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方にも協力を頂き地域の行事などにも参加させて頂いてる。			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	地域化かかりつけ医師などと連携を図り適切、安全、安心な医療が受けられるように連携を図っている。	かかりつけ医に職員が同行し、受診の支援が続けられています。医療連携体制による看護師の定期健康観察や、オーナーであるドクターの週3回訪問診療もあり、適切な医療が受けられる体制が、家族の安心の一つとなっています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携にて看護師と連携を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関との連携を図り関係者との連携を図っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人、ご家族と医療機関と適時に話し合いを落ち事業所の出来る範囲で方針を共有している。	重度化や終末期に向けた指針・方針が整備され、同意が得られています。看取りの経験もあり、家族と医療関係者、職員が話し合い、連携を図ることで、家族が納得できる支援となっています。終末期生活支援に関する覚書を作成し、今後の対応に備えています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	随時、研修、勉強会など行い実践力を身につけているようにしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協体制を築いている	年三回行っている。家族、地域の方にも協力、連携をして頂いている。	スプリンクラー・緊急通報システムの設置、日中・夜間想定避難訓練を継続しています。地域に避難訓練の協力要請を行い、地域住民の方々・家族も参加して頂いています。ホーム内の見学で非常時の対応確認、消防署には利用者の特徴や写真のファイルを情報提供しています。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	なれあい、よそよそしい言葉かけにならないように努めている。	一人ひとりの性格や個性を見極め、誇りを損なわないケアに努めています。「～のお父さん」「～のお母さん」と、地域ならではの呼び方で、呼んでいます。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その人らしい生活は送れるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の生活リズムに沿って過ごせるような支援が出来るように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人が昔なじみの美容、理容院を利用している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	役割等がありみんなで協力しながら食事を楽しむ事の出来るような関わりを持っている。	食材は業者から届き、職員が調理しています。利用者は、下拵えや準備、後片付けも出来る力を発揮し、一緒に行っています。イベントに合わせた献立で、季節が感じられる工夫をし、天井や寿司の出前、また、町内のビールパーティーにも参加しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	習慣、状況に応じて支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その人に応じた支援を行っている。	排泄のパターンを把握し、プライドに配慮しながら、日中はタイミングを見て、声掛け誘導を行っています。夜間も利用者の生活習慣に合わせて、トイレでの排泄支援を行っています。通院リハビリを続けている方の、ホーム内でのリハビリも、自立に向けて一緒に応援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々に応じた支援対応を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日入浴が出来る体制を作り、個々に浴って支援している。	2ユニットとも機械浴の設備となっており、重度化した場合も万全となっています。入浴については、毎日準備され、一人ひとりの希望に沿って対応しています。シャワー浴や足浴の支援、時々、近くにある自宅へ帰り風呂に入る方もいます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	状況に応じて支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬表を作り変化に対応出来るように支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その人に応じた役割、楽しみ、気分転換が出来るように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族等の協力を得て昔なじみの場所、季節に応じた場所等で出かけられるように支援をしている。	利用者の体調を考慮しながら、近くの散策や買い物に出かけています。年間を通しての外出行事も計画され、芦別市の菖蒲園や六花亭でコーヒータイトム・チーズ工房・花見・へそ祭りにも出かけています。近郊の福祉事業所との相互交流も積極的に行い、祭りに参加したり、流しそうめんを味わうなどしています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望に応じて支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	その都度訴えに応じて支援を行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた環境作りを行っている。	1階と2階は同じ造りで日当たりも良く、日中を過ごすリビングは、季節を感じる事が出来る装飾が施され、職員と一緒にのんびり暮らしています。清潔感もあり、室温の調整や湿度の管理も適宜行っています。気になる匂いもなく、目の前で調理している音や匂いが食欲をそそっています。トイレには十分な手すり、男子用のトイレ便器も以前の生活の延長にあり、安全の確保と混乱を防いでいます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	思い思いに過ごせるような環境作りに努めている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の使い慣れた物など利用して頂き居心地よく生活して頂けるように努めている。	洗面台にクローゼットが設置された居室は、使い慣れた家具や寝具、テレビ・冷蔵庫等が持ち込まれ、自分らしい装飾と配置で、安心して過ごせる空間となっています。入り口には、職員手作りの表札が掛けられ、家族や友人が訪れた時に、ゆっくりと語り、以前の生活を思い出せる住まいとなっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	皆が使いやすいような環境作りを心掛けている。		